

バツタン

バツタンとは昔、田舎で野兎や狐、狸、小鳥等捕らえるのに仕掛けた装置の事である。

私は仕掛けた記憶は無いが、仕掛けの名人が居て、兎が獲れたの、狸が獲れたの、話は聞こえてくる。

西部劇で馬を捕らえる輪投げのシーンがあるが、あれと同じ方法である。弾力ある適当な木の端を、地面スレスレに引き寄せ、輪を作った丈夫な紐で固定する。丸い輪の中心に餌をおく、獲物は輪の中に入るか、獲物に食いつけば、止めてある装置が外れ、獲物は足、首、胴に絡まり、空中高く宙ブランに吊り上げられる。

獲物によって装置の大小がある。主に兎、狸、狐、獲るのに使用していた様であった。丈夫なワイヤーを使用すれば、熊でも獲れるだろうと思うが、人間が掛かったら大変だから、仕掛けなかったのだろう。

主に冬場の仕事、農閑期、一面の銀世界での猟である。

獲物達は食物が雪に埋もれ飢えている。雪の上に独特の足跡を残し、移動する。鉄砲打ちも足跡を追跡する。私も父親に付いて行き、一面の銀世界、眩しいばかりの野山を、駆けずり回った少年時代を思い出す。

仙台に転居して間もなく、スピッツの子犬を飼った。真っ白の可愛い子犬で子供達にセガマレ、我が家の一員となった。名前を子供たちが“チル”と名付けた。



困った事に、夜な夜な、美人（？）のチルにモーションかけに通つて来る何処かの飼い犬か、野良犬かが判らない犬がいる。

表は入れないようにしたが、裏の隣との間から侵入してくる。何か侵入を防ぐ方法は無いものかと考え、幼き時代の記憶の底からバツタンを思い付いた。

本物を作れば死んでしまう。私は電気屋だ、電気仕掛けで何か撃退する方法は無いかと考え、ある仕掛けを考え付いた。

犬を感電させれば、吃驚、来なくなるだろう、犬は素足だから装置は簡単である。

板の上に間をすかして二枚のトタン板を張り、コード線で屋内より一〇〇ボルトを通電して置いた。侵入して来る通り道は判っている、だが犬はどの位電気に強いかわからない。

馬は六・七〇ボルトで死んでしまうらしい。だが小さい動物は平気だかも知れない。小動物が電気で死んだ話は聞いた事が無い。犬は四本足だから、鉄板の上を通る時、必ず両電極を踏む、前足と後ろ足で胴体に通電する。どの位吃驚するかが楽しみだった。夜床に入る前にコンセントから、装置に通電して眠りについた。真夜中、でつかい悲鳴が聞こえ家族全員目を覚ました。

何ともいい様のない異様な悲鳴だ。それも一〇〇メートル以上聞こえそうな啼き声である、ドタン、ボタン、暴れている。

家族全員真っ青になった。約三十秒でチャンチャンと啼きながら逃げていった。

行ってみると電線が切れている。暴れている時切れたのか、喰いちぎったのかは判らない。

妻と思ひ出す時、あの悲鳴が聞こえてきそう、嫌な気分になる。私はこんな悪戯気が少年時代からあった。あれから二度と電気の悪戯はした事が無い。